

伝産男子。伝産女子。 Vol.5

～紀州筆筥～

桐の魅力を活かした新しい作品を生み出し、最終的には桐筆筥を後世に残したい
～人の出会いが伝統を繋ぐ～



有限会社家具のあづま 代表取締役
東 福太郎 さん 39歳

1981年和歌山県生まれ。伝統工芸士(紀州筆筥)
明治24年から続く木材屋に生まれながらも、跡を継ぐつもりは当初はなく大学で経営学を学んだ後、22歳で京都伝統工芸大学校(TASK)へ入学し木工芸を学ぶ。学生時代は他の学生の誰よりも貪欲に木工芸を学び、その後もさらなる高みを目指し漆工芸などの木工芸以外の技法も習得。後世に技法を伝えるだけでなく、究極の紀州筆筥の開発を目指している。



紀州筆筥の特徴とは？

桐には、①熱を通さない、②湿度の変化に強い、などの特性があり、衣装や財産の保管に適しています。詳しくは伝産協会のHPでも紹介しているので、ご覧ください。

伝産協会内
紀州筆筥紹介ページ



受け継がれた技法を絶やしてはいけない

なぜ家業を継ごうと思ったのですか？

大学3回生の時、とある家業を継いだイタリア料理店のオーナーシェフと話したことをきっかけに、「先祖代々受け継がれてきた紀州筆筥の技術・技法を自分の代で終わらせてはいけない」と思ったからです。4代目である父にはすぐに継ぐのは無理と反対されました。その後木工の技術を習得するため、京都の伝統工芸大学校で勉強しました。その選択がなければ今の自分はなかったと思います。



サイズの違う3つの器と桐のグラス《富士》がセットになった桐のプレートセットflower



LEXUS NEW TAKUMI PROJECTのビアカップ



クラウドファンディングをきっかけに世界が一転

何が事業の転機になりましたか？

2016年に他社が絶対に真似できないような厚さ1ミリの桐のビアカップを作りました。話題作りのためにクラウドファンディングに出店したところ、わずか7時間で達成しました。それが話題となりLEXUS NEW TAKUMI PROJECTに推薦されグランプリを受賞しました。その他、欧州の展示会出展や、各種業界で活躍されている方々との出会いなどをきっかけに、活動の場を広げていきました。



人を育て桐筆筥の新しい形を目指しています

今後の目標を教えてください

意欲のある若者を受け入れ、自分の技術を惜しみなく伝えて、自分のライバルとなるような後継者を育てることです。これこそが産業の発展の一番の近道だと思っています。新しい空気が入るからこそ、新しい文化が生まれると思います。伝統工芸士を子供達の憧れの職業することが最大の目標です。



伝産男子。伝産女子。 Vol.5

～紀州筆筥～

紀州筆筥の魅力は 筆筥の中の物を守ってくれる機能面だけではなく色もすばらしいところ



有限会社家具のあづま

濱口 凜 さん 24歳

1996年高知県生まれ岡山県育ち。中学校時代に美術の授業で寄せ木細工を見て木工に興味を持ち、高校で工業デザインを学んだ後、京都美術工芸大学 伝統工芸学科 木工コースへ入学。2019年卒業後、家具のあづまへ入社。

社内で最年少ながら、東社長から、どんな作業でも幅広くこなす強い意志と潜在能力の高さを評価され、次世代のエースとして期待されている。愛称はリンリン。

制作全般に携わっています

どんな仕事をしていますか？

社長の補助をはじめとして、製材から塗装、仕上げまで制作全般に携わっています。各種商品の内側のカンナがけは難しく技術が求められる作業です。

ちなみに私のオススメ商品はカッティングボードです。



濱口さんイチオシのカッティングボード

初めての商品はオーダーメイド

仕事を通じてうれしかったことは？

初めて作った商品は、お客さんがラフスケッチを持って注文に来られたオーダーメイドの小引き出しでした。その商品の納品日はお客さんの誕生日だったのですが、立ち会うことができ思い出に残る1日になりました。

伝統工芸士を目指したい

今後の夢を教えてください

自分の商品が売り場に並ぶところを想像して、商品制作に携わっている喜びを感じながら日々頑張っています。6年後に伝統工芸士を取得することが目標です。



有限会社家具のあづま

【住所】 ショールーム：和歌山県紀の川市名手市場278-1
工場：和歌山県紀の川市名手市場1169-1

【TEL】 0736-75-3600 【FAX】 0736-75-5660

【代表取締役】 東 福太郎

【創業】 1891年 【従業員数】 7名 【会社ホームページ】 <http://azuma-kiri.jp/>

【会社概要】

120年以上前から桐筆筥の製造を行う家具のあづま。和風から洋風、婚礼からインテリア家具、また顧客の要望にあわせたオーダーメイド家具まで幅広く製造・販売している。5代目の東福太郎氏は桐筆筥の職人として腕を磨く一方で、漆や文化財保存技術など伝統工芸技術も習得。桐筆筥に留まらず、宮大工として神社の本殿建築、桐の備え付け家具、桐製のカッティングボードやロックグラスなど雑貨の製造販売も行っている。

